



49.5%

家事分担について  
「特に話し合っていないが、生活する中で自然に  
分担するようになった」と回答した男性の割合

2018年「家事に関する“夫の”意識調査」  
象印マホービン

「もー、お茶碗の汚れ、ちゃんと落ちてないわよ」「せっかく洗ってあげたのに、そんな言い方なくていいだろ!」「あげたって何よ! 共働きなんだから家事分担は当然でしょ」—そんなバトルも繰り広げられているかもしれない夫婦の家事分担。皆さんのご家庭では問題なく分担できているだろうか。

象印マホービン株式会社が、「首都圏・関西圏に住む」「20代・30代」の「共働き世帯」の「男性」800名を対象に実施した「家事に関する“夫の”意識調査」によると、「夫婦で家事を分担している」のは84%で、家事分担が標準の姿として伺えた。その内訳を見ると「平等な量で分担が決まっている」が25.5%で最も多く、「分担は決まっているが、妻の担当が多い」25.0%、「特に分担は決まっていないが、お互いが出来る時に出来る家事をしている」23.1%、「分担は決まっているが、夫の担当が多い」10.4%と続く。

さらに「家事分担はどのようにして決めましたか」の問い掛けに対しては、「特に話し合っていないが、生活する中で自然に分担するようになった」の回答が49.5%と約半数を占め、意外にも「夫婦間で話し合って決めた」は23.1%にとどまった。

「結婚したら、仕事も家事も夫婦で担う」。若い世代ではそれが当たり前のこととして、自然にできるようになっていることの現れなのだろうか…。

1時間10分

就学前の子供がいる夫婦  
の夫が育児に関わる  
1日当たりの時間

令和2年版「男女共同参画白書」  
内閣府

親として子供の成長は何物にも代え難い喜びを感じられるものだが、その過程においては多くの苦勞を伴う。とりわけ乳児期から小学校入学前までの子育てはとかく手がかかるものだ。食事や排泄、睡眠といった生理的活動の世話に始まり、言葉を教え、社会生活の基本を身につけさせていかなければならない。健康面でもいろいろな病気にかかりやすい年頃で、心配の種は尽きない。

令和2年度版『男女共同参画白書』掲載の「家族類型(男女別)ごとの1日当たりの家事・育児・介護時間と仕事等時間」によると、「就学前の子供がいる世帯」で「仕事をしている男性」は、「仕事のある日」で「1時間10分、育児をしている」という結果だった。この数字をご覧になって、皆さんは「多い」「少ない」のどちらと感じられただろうか? ちなみに同じ条件下、女性は「2時間47分」で男性の2倍以上だったが、「仕事のない日」では男性「2時間28分」、女性「3時間9分」でその差は1.3倍に縮まっていた。

育児に関わる時間は、子供の成長にしたがい減少していく。「仕事のある日」で「子供が小学生の世帯」では男性「31分」、女性「1時間16分」、「子供が中学生の世帯」では男性「13分」、女性「35分」と、子供と接する時間は大きく減っている。

子供の成長は親が思っている以上に早いものだ。できることなら、多少、仕事の時間を調整してでも、子育てと関われるうちにしっかり関わって、子育ての喜びを味わっておきたい。

(執筆/ライター 更田 沙良)